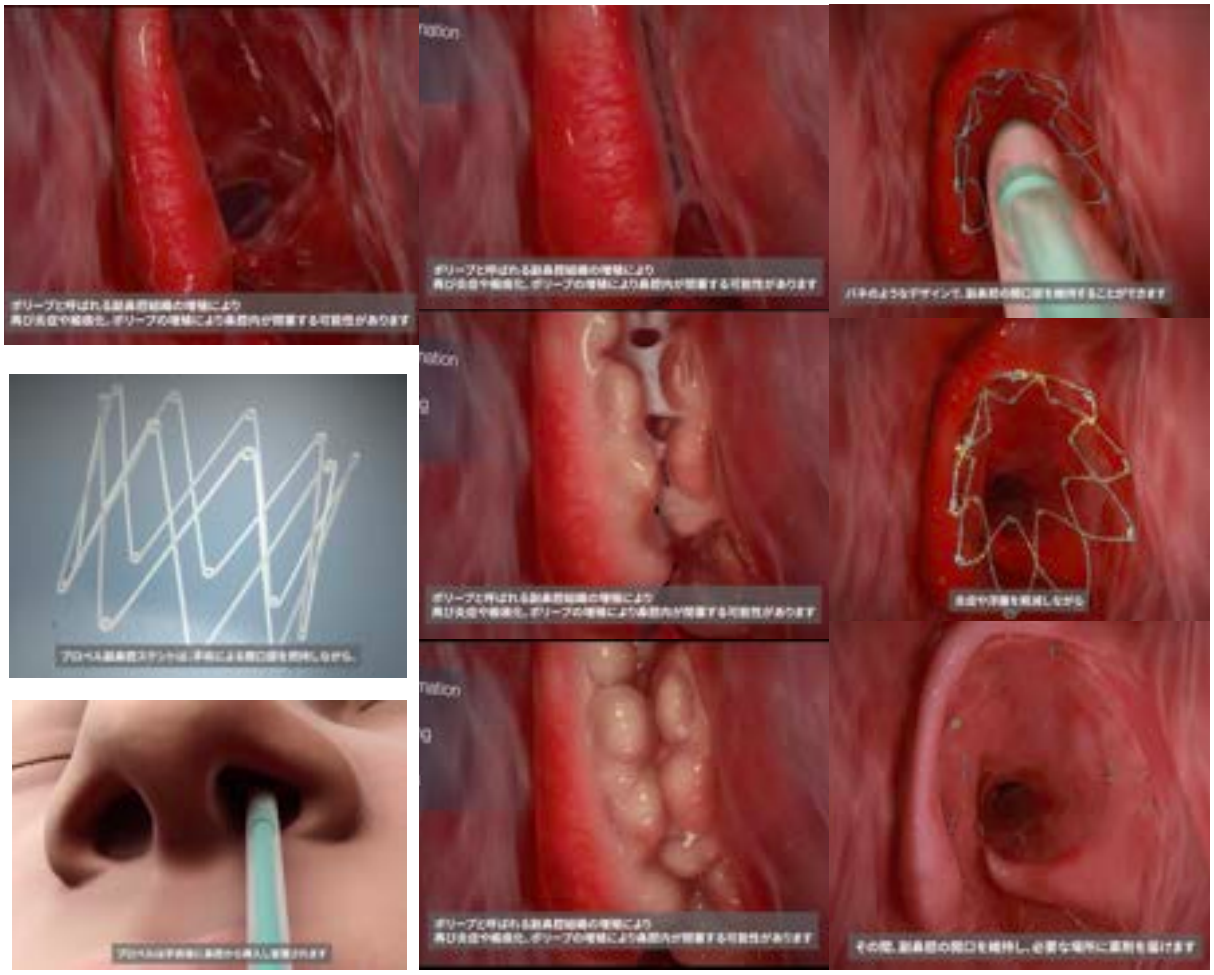
薬剤溶出型生体吸収性副鼻腔ステント

副鼻腔炎の手術後、適切にケアをしないと、５年後に50%の人で、鼻茸が再発すると言われています。とくに好酸球性副鼻腔炎（喘息・アレルギーが原因）の人に再発が多いです。好酸球性副鼻腔炎の診断が確定したら、術後に難病申請をして、再発しても、2回目の手術費を安く抑える準備をします。

しかし、2回目の手術は避けたいものです。当院では、薬剤溶出型生体吸収性副鼻腔ステントの併用を薦めています。ステロイドを徐々に放出するネット状のステントを、鼻の中に留置する治療法です。

手術直後は広い穴だが　　ケア怠ると炎症から鼻茸が再発　　ステントで広げて消炎と予防



1本4万円のステントを左右の鼻に使用すると、8万円になりますが、鼻の手術と入院費が高額（30万円程度）で、すでに高額医療費の上限に達しています。

高額医療費は、年収によって異なりますが、限度額以上の医療費の支払いを免除する制度です。年収1160万円以上での支払い総額は25万円、年収770万円以上では16万円、年収370万円以上では8万円、年収156万円以上では5万7000円以上を、支払う必要がありません。100万円の医療費が請求されても、高給取りで25万円、年金暮らしでは5万7000円が上限で、残りは税金でカバーされます。

8万円のステント代は、高額医療費の上限を超えているので、追加しても支払い金額は変わりません。8万円のステントでも、支払いは０円です。しかし、片側の鼻のみの手術では、年収によっては、高額医療の上限に達しないので、追加の金額がかかることもあります。

Copyright@Katsumasa Takahashi 2026